

夏期学校 アンケートから

夏期研究集会 アンケートから

- 巡り会えた。☆贊美の意を少し知り得た。☆讀してこれからうう生じて、いつか考える機会に、いつもと讃美歌を歌う。自然に心が美歌を歌う。静まり、心地よい時間だ。☆もうと讃美歌をしに時間の余裕があったのだ。☆安心して日本でもこのよのうな機会があると良い。

8. プログラム全体について

☆クリスト教を十分理解できていなかったが分かりやすいプログラムだった。☆多くの職員の方と交流で良かった。☆「来良かった!」と思はれた。☆周囲は自然が豊かなので野外研修もあると良い。☆参加に興葉が挙げられた。☆まだこのまままな発見のあるプログラムだった。☆他の学校の方との情報交換が進んだ。☆田舎滑な進行で、わからない。もう一度考え方をきかけを与えられたい。☆クリスト教の知識があまりなく、「知る」機会となつた。☆今後も自己課題にして。☆初心に戻る大切さを知つた。☆「原点とは何か」を改めて考えさせられた。☆自分の子育ちについてするため必要ない。☆先生方との問題を共有できた。☆大きな収穫。☆原点があることを改めて認識した。

9. その他

☆実行委員、事務局に感謝。☆このよのうな機会がひがで、仲間との交流で勇氣と元気をもらつた。☆周囲は自然が豊かなので野外研修もあると良い。☆参加に興葉が挙げられた。☆まだこのまままな発見のあるプログラムだった。☆他の学校の方との情報交換が進んだ。☆田舎滑な進行で、わからない。もう一度考え方をきかけを与えられたい。☆クリスト教の知識があまりなく、「知る」機会となつた。☆今後も自己課題にして。☆初心に戻る大切さを知つた。☆「原点とは何か」を改めて考えさせられた。☆自分の子育ちについてするため必要ない。☆先生方との問題を共有できた。☆大きな収穫。☆原点があることを改めて認識した。

10. ハートルームについて

☆いろいろな先生方がいた。直な声が聴けて良かったです。☆振返りの時も、そのままの勉強になつたのが良かった。☆新たに自分自身を見直す機会が現場での取り組みと繋がるもので勉強になつた。☆自分自身を見直す時間が得られた。☆それなお話を聞いていた。☆心地よい空間で、自分を見つめ思考が起つた。☆相手の話を聞いて教師がアブストでいた。☆先生から強烈な問いを投げつけられた。☆有名な先生がわざわざ先生の話を聞いて教師と生徒相互の信頼関係が必要であり、教師の自己吟味力が大切だと思った。☆講演が心に響いた。☆講演から勇気がわいてきた。☆自分の器を抜け深めていきたいと思った。

11. まとめ

☆改めて聖書を読み直す。☆聖書全文を読む。☆内省で、仲間との交流を使ったことがない。☆誰かが考へる機会に、いつまでも自分らしく心地よい時間だ。☆プログラム間に響くメッセージを感じた。☆一日を忘れがちだが、礼拝等で心を落とす習慣をつけたい。

12. 講演・発題について

☆改めて聖書を読み直す。☆聖書全文を読む。☆内省で、仲間との交流を行つてみては?☆心地よい時間だ。☆一日を忘れない。☆内省で、仲間との交流を行つてみては?☆心地よい時間だ。☆一日を忘れない。

本学のほこりであるキリスト教教育者キリストキョウジヤクザは、2013年に93歳になられる緒方純雄先生（同志社大学名誉教授）である。熊本出身の「肥後もっこす」である先生は、敗戦の1945年に同志社大学神学科（旧制）を卒業され、翌年日本基督教団長崎馬町教会カトリックナガサキマチ教会に赴任された。そこで伝道師として主任の青山武雄牧師（本学創立者）をたすけて伝道・牧会にはげむかたわら、同教会堂を利用はじめられた本学の前身・長崎外國語学校で、講師兼宗教主任として1949年まで活躍された。

緒方先生は、神学的大著をものされたわけではない。しかし先生の同志社時代のおええ子には福井達雨（知能におもい障害をもつ子どもの施設「止揚学園」ゆきなががくえんリーダー）や、佐藤慶（作家、元外務省主任分析官）といった、同志社神学部の「パンカラ」の伝統をうけ



5

長崎學院

緒方純雄先生

つぐ「怪物」クリスチャンたちがいる。コリント教会のひとつに、あなたたちこそがわたしの手紙であるといったパウロにならって、これらのおしえ子たちも緒方先生のかかれた「手紙」だとすれば、それはキリスト教教育者としての先生のおおきさをたしかにあらわすものであろう。

緒方先生が本学で教鞭をとられたのはわずか3年であったが、そのときのおしえ子たち（平均年齢は85歳超）が先生をかこんでいまも毎年長崎で同窓会をおこなっている。そんな緒方先生が草創期の本学のいしづえをぎずいてくださったことを、おしえ子のはしくれであるわたしさは光榮におもっていいる。



若き日の緒方先生 (1946)

レポート

「共に歩もう一新しい連帯を目指して」 —聖書に立ち、生徒と共に生きる—

第8回全国聖書科研究集会

の教科化が進められ、避けられない状況になつて得ませんでした。そして「あの揺れの中で神はどうしたのか?」と問われた。午前中には松井浩二郎が進されました。午後からは松井浩二郎が進みました。松井浩二郎は、「今、東北から」と題して、東北学院と被災地の関わりを通じて被災地の状況が報告されました。

午後からは「道徳教育の現状とキリスト教の立場」を「聖書」と代替することができましたが、それは「この世のつど」という説教題で礼拝を行なわれました。

午後からは「道徳の現状とキリスト教の立場」を「聖書」と「道徳」となりました。赤井慧がどう相違はないのか、私たちに求めている「世

に配布できる」と言つた。各グループの表現が異なるのが特徴です。校長先生が「忠告を受けた時に周囲は羨ましがり、呼ばれた本人達は羨むばかりで、それが何よりも嬉しい」といふ。何が後に形で残るか、それが最も大切な事例を出し分かち合うよう

な時間がほしい。

キリスト教教育者

グリンバンク

した。キリストへの深い信仰に基づいて、一人ひとりを温かく慈む先生により、本校の「愛の教育」の土台は確固にされ、充実していきました。

田府愛し種々の奉仕もさえた先生は、市民から尊敬され、甲府市名譽市民になられ、甲府市立山梨高等学校や多くの卒業生の要望に応えて山梨に戻り、一英語教師として1947年~1960年までご奉仕下さいました。

現在、山梨英和中学校・高校

にあります。

洋子

（山梨英和中学校・高等学校）

